

(様式3)

自己評価結果票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人がその人らしく生活できるよう、作り上げている。		地域密着サービスの意義を踏まえ、ホームや地域の状況や変化に応じた理念作りを検討していく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り前に、理念を唱和、また、各自の名札に理念を記入したカードをいれ、日々理念と触れるようにしている。日々の実践において、理念を具体化、達成可能なものとするために、年間フロア目標を設定し、定期的に評価している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの理念方針については、運営推進会議の場やホームの見学、ホーム便り・パンフレット等を活用し伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物や散歩の際に、挨拶を交わしたり話をしたりしている。定期的に「ふれあい喫茶」を開催し近隣の方と「ふれあう」機会をつくっている。	○	「ふれあい喫茶」や施設行事の場を活用し、近隣マンションでも増加している一人暮らし高齢者の閉じこもり防止を、地域ボランティアと協力して取り組んでいきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小中学の文化祭やお祭りなどの行事などに積極的に参加している。また、中学のトライアルウィークや小学生の見学を受け入れている。地域の清掃活動などにも利用者と一緒に参加している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	メールでの認知症介護相談や地域の方々を対象と して認知症・介護よろず相談所を設けている。月 1回行う勉強会への参加呼びかけも行っている。 また、認知症介護指導者としてかかわっている。	○	人材育成の貢献として認知症介護にかかわる実習 生の受け入れを今年度より行う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解し職員全員で「質の確保 と向上」に向け自己評価に取り組んでいる。	○	前回の評価の結果を踏まえ、職員一人ひとりが利 用者の視点に立ち、改善すべき課題を具体的に検 討し、実践につなげている。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	施設からの一方的な報告会にならないよう参加 メンバーからの意見や要望を受けサービス向上に 活かしている。		
9 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の場での情報交換や、課題発生時 にはアドバイスを受けていたりしている。また、認知 症介護研修の場として実習生を受け入れサービ スの質を向上できるよう取り組んでいる。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	新人研修や定期的な勉強会の中で理解を深めるこ とが出来よう取り組んでいる。必要なケースが ある場合、窓口を一本化しているため管理者が対 応するが、簡単なアドバイスや理解は各自でき ている。	○	介護相談や入居相談時、必要事項を利用者や家族 に情報を提供している。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し高齢者虐待防止に関する理解浸透 に努めている。	○	新人職員に関しては、入職時の新人研修にて勉強 会を行いその後、担当プリセプターが精神的な力 パーも含めて継続的な指導を行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間を十分にとり説明を行っている。(入居相談時に家族様に必要書類を配布し入居を検討する段階で施設の方針、リスク、利用料、重度化や見取り、医療連携、退去時の対応範囲、契約解除契約時などの簡単な説明を行っている。)</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>思いや意見、苦情などを出しやすい雰囲気作りを行っている。また、ご意見箱の設置や普段の何気ない些細な言動をもらさないよう声拾いメモ活用している。意見を上手に表出することの出来ない方に関しては、センター方式を活用し、「好む・好まない」対応を理解したうえで関わっている。</p>	<p>○</p> <p>声拾いメモを活用することで、何気ない一瞬の大切さ、普段埋もれている何気ないことまで拾いケアに反映することが出来る。また、職員の中に埋もれている情報も拾い出すことが出来る。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時などに現在の状態などについてお伝えし、他に希望される家族様にはメールで様子を伝えている。緊急を要する場合は随時連絡を行っている。施設の生活や行事の様子などは、ホーム便りやビデオなどで伝えている。</p>	<p>○</p> <p>金銭管理については、毎月金銭出納表と領収書を家族に手渡し報告を行う。施設の人事などについては、運営推進会議の場で伝達している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会や訪問時などに何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。また、ご意見箱の設置を行い、意見や要望、苦情などは苦情処理委員会にて防止改善策を話し合い、結果をお知らせしている。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議後に家族会を設けているが、職員も同席しているため家族間での率直な意見交換ができていなかったように感じる。家族会の運営などについて今後検討していく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>詰所会議を毎月、ミーティングを毎日開催し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日々の業務内容に関しては、教育業務改善委員会が毎月検討し質の向上につながるよう取り組んでいる。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態や状況に応じて対応できる勤務調整を行っている。</p>	<p>○</p> <p>配置職員の急な休みなどの際に、常に応援できる体制を確保している。夜間の急変時の際も管理者が到着するまでの応援体制がある。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	有料老人ホームと併設しているが、基本的に職員を固定化している。離職がやむを得ない場合に関しても利用者に混乱をきたさないように最善の配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会を中心に年間教育計画を企画している。機会があれば近隣の事業所が開催する勉強会にも参加。施設外研修へはなるべく多くの職員が参加できるよう配慮している。外部への研修参加後は、他の職員への伝達会も開催している。新人職員に対しては、新人教育後、1年間プリセプターが全体的なフローを行っている。	○	
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研修の場を通じ他施設との情報交換や連携を図っている。近隣の施設への勉強会参加を呼びかけや認知症実践者の実習生を受け入れることにより、サービスの質向上に向け取り組んでいる。	○	近隣の介護施設間での連絡会などには、開催毎参加しているが、同業者間での連絡会の結成が企画段階で止まっているため、実現に向けて取り組んでいく。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みやストレスを把握するよう日々努めている。施設の親睦委員会が企画する行事に参加し、気分転換や親睦を図る機会を設けている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ケアの現場に入り利用者や職員の状況把握に努めている。労働条件を整え、職員の健康管理についても年2回の健康診断や普段の指導も行っている。資格取得に向けても最大限の支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>施設の見学、体験、イベント参加、必要時訪問を行い「なじみ」の関係を持つと共に、少しずつご本人の不安や思いを受け止め信頼関係をつくれるよう努力している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の立場に立って考え、思いを受け止める事ができるよう関りを持っている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に状況を把握し、体験やイベント等の参加などから「なじみ」を築く対応の検討や、必要時は、他の事業所との連携を持ち、必要な他のサービスにつなげる対応を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>施設の見学から始め、イベント行事等への参加を促し、少しずつ「なじみ」がもてるようにかかわっている。状況に応じて職員の訪問や体験を行い安定を図っている。やむを得ない場合は、ご家族や、ケアマネージャーに訪問を依頼し安心が持てるような関りや、散歩やなじみの場所へのドライブ、なじみのある医師との関係を維持することで安心が持てるよう関っている</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>その人らしく、その人の物語が継続できるよう関りをもっている。共に生活を送るパートナーとしてお互いに支えあい生活を送っている。</p>	<p>その人らしく、その人の物語の主人公として、生活が継続できるようバックグラウンドを十分把握するように努め、出来ることや可能性に十分な光を当て、自尊心を傷つけないよう職員やご家族との情報交換を密にしている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	職員とご家族が、共に支えるパートナーとして情報交換を密に行い、一つの問題を互いに協力し、解決できるよう関りをもっている。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	遠足や施設内での行事への促しを行い、より良い関係が維持、継続できるように努めている。		次年度は、1泊旅行実現に向け計画していく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみある場所への「思い出めぐり」としてのドライブや、いきつけのデパートでの買い物を行っている利用者があり、それぞれの生活習慣を可能なかぎり尊重している。		「思い出めぐり」は、現在不定期に実施しているため、可能なかぎり計画的に継続して行えるよう計画していく。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	状況に応じた対応を行っている。集団生活の中で孤立しないよう、また、お互いが支えあい生活できるようにそれぞれの個性や力をうまく発揮できるように配慮している。		些細な変化や気づきを他の職員に伝えあうことができるよう「声拾いメモ」を活用し、日々変動ある利用者の同士の関係維持に努めている。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の病院へ入院となられた場合など、利用者とお見舞いに出かけたり、フロア移動された場合は、お茶の時間やレクリエーション活動を共に行い関係維持に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中での訴えや、かかわりの中での些細な変化、表情や行動などからそれぞれの思いを把握するように努めている。</p>	<p>不可能な場合であっても、ほんの数時間でも思いが実現できる方法を必要時ご家族と検討している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>その人らしい生活が、継続できるようその方のバックグラウンドを大切にしている。その方がどのような物語を送られてきたか、センター方式をアセスメントツールとして活用しその方の全体像の把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>情報だけにとらわれず、日々の生活からその方の全体像把握に努めている。</p>	<p>些細なことを見落とししたり、職員個人の情報として埋もれてしまわないように、そのつど「声拾いメモ」に記入し、他の職員と共有できるように取り組んでいる。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の方々が自分らしく暮らせるようにご本人の思いを聞き取り、ご家族、職員、必要時事業所以外の関係者の方とカンファレンスを行い、計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の担当職員やリーダー、管理者がご本人のニーズや状態の変化に注意し、実施機関にとらわれず見直しを行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の状態については介護記録に記載、医療スタッフのかかわりについては、看護記録、医師の個別カルテ、ADL・認知機能については、毎月チェックし、日々のバイタル・食事・水分・排泄など個別に記録し、それらの情報を介護計画見直しの際、ツールとして活用している。		日々の些細な変化や、かかわりの中での些細な反応を、個人の情報として埋もれてしまわないように、声拾いメモを記入している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への付き添いやその他の送迎介助などの支援を実施している。また、医療機関への長期間の入院や重度化した場合に住み慣れた場所でなじみある職員や利用者の方々と生活の継続が行えるよう、往診医・施設看護師・医療機関のスタッフと連携を持ちかかわっている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の方々が、安心して生活が送れるよう、地域の方々や警察・消防・近隣施設へ働きかけている。		
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用させてもらっている。その他必要に応じて、外部のケアマネジャーと連携を保っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	状況に応じて個別的支援を行うために、連携を図っている。また、運営推進会議の場にて周辺事情や地域資源の情報、アドバイスなどを受け協力関係を築いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には施設の往診医師が主治医（ご家族、利用者の同意にて）となっているが、状況や状態、利用者やご家族の希望によりなじみの医療機関や専門病院への受診支援を行っている。また、状況や状態に応じて専門的な治療を受けることが出来るよう複数の医療機関と連携をとっている。		受診の際は、状況や状態が明確に伝わるよう情報提供書を事前に医療機関に提出している。受診後もその経過報告を行っている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状態に応じて認知症専門病院への受診を行い、適切な内服治療と対応のアドバイスを受けている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の配置により、日々の健康管理や状態変化に応じた対応を行えるようにしている。夜間は、オンコールにて24時間看護職員に相談できる体制になっている。		併設施設の看護師へも情報提供を行い、必要時互いに協力できる体制を確保している。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	長期入院によるストレスや負担を回避するため、医療機関のスタッフや往診医師との連携により施設での療養可能な状態に近づけば速やかに受け入れられるようかかわっている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときの指針を作成し、利用者、ご家族に説明を行っている。		本人にとって良い方法、そのつどかかわる専門職（介護・看護・医師・ケアマネ・理学療法士）が話し合いご家族の意向を確認しながら対応方針の共有を図っている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	意向を踏まえ、各専門職員がチームとして連携をとり、安心して最期を迎えることができるよう取り組んでいる。		職員個々に不安が生じないよう、ご家族も含め話し合いをする場を設け、一つのチームとして連携を深める事ができるよう取り組んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の際には、情報シート、ケアプラン等の情報の提供を行っている。併設の施設への転居が主であるため度々職員が顔をみせたり、お茶の時間を共に過ごしたりしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を守るケアを徹底してかかわっている。		機密保持に関する誓約書を作成している。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活を共に過ごしている認識で、すべての事柄においてご本人の意思を尊重している。		食事については、栄養面上すべての食事を選択したメニューで提供するのは現状困難であるが、日々1品でも対応できるよう検討していく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共に生活を送る認識で、日々の思いに配慮し対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の意向で決めている。自己決定が困難な場合は、職員が日頃のかかわりから得た気持ちにそった支援を心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>栄養面上すべてのメニューを決定や選択することはできないが、嗜好調査を行いメニューを考慮している。また、定期的に利用者と相談し、レストランで外食を行ったり、お弁当やハンバーガー等をテイクアウトしてテラスで食事を楽しんでいる。</p>	<p>食事の盛り付けや後片付けなどは利用者と共に行っている。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>健康管理上、管理が必要な方以外は、自由に嗜好品を楽しんでいる。</p>	
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄パターンの把握に努め、オムツに頼らない個別支援を行っている。</p>	<p>日々の排泄パターンを把握するため、排泄チェック表を使用している。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>深夜の入浴以外は希望に沿う対応を行っている。姉妹で入浴されたり、気の合うもの同士で入浴されることもある。温泉気分を味わう目的で大浴場を使用することもある。</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>利用者一人ひとりの生活リズムに合わせて、体調なども考慮し、必要な睡眠・休息時間の確保を支援している。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>状態や個々の力に応じて、自然な形で力を発揮していただいている。外食やドライブ、旅行や行事に関しても利用者と共に考え職員主導にならないようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員管理となっているが、個々の希望や力に応じて全額個人管理をされている利用者もおられる。職員管理の場合でも、外出や買い物の際には、個人の財布を手渡し、本人が支払いできるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋外でのバーベキューや散歩、ドライブなど利用者各自が季節感を感じ取れるようかかわっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者それぞれに希望を聞き、計画を立て実施している。頻回の実施はできていないが、なじみある場所への「思い出めぐり」も実施している。今年度は、動物が見たいとのリクエストがありサファリパークに日帰り旅行を行った。		計画段階ではあるが、温泉などに一泊旅行を検討している。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム設置の電話を自由に使用している。また、そのための個別支援を行っている。自室に電話機を設置されている方もおられる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や友人、近隣の方に気軽に居心地よく過ごしていただく雰囲気作りを心がけている。面会時間は定めていない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており、委員会を中心に日々のケア実践において、身体拘束にあたいしないか、ケアの振り返りや点検を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>今年度も年間計画として消防署に蘇生法などの講習を依頼していたが、消防署の都合により実施できていない。来年度は再受講できるよう依頼する。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>地域での協力体制については、防火管理安全対策委員会を中心に自治会や運営推進会議で呼びかけを行っている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	安全に生活を送ることは大切であるが、安全を優 先してしまうと、利用者の自由を奪ってしまうこ ともつながる。利用者個々の状態を理解したう えで、家人とカンファレンスの際に話し合い、抑 圧感の無い暮らしを提供できるよう支援してい る。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	バイタルだけではなく普段のかかわりから些細な 変化を見逃さないよう観察と記録を行っている。 食事摂取量や飲水量なども把握し、あらゆる面 から異常を早期に発見できるよう努めている。異常 があれば看護師に報告し状況に応じた対応を速や かに行っている。		
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副 作用、用法や用量について理解しており、 服薬の支援と症状の変化の確認に努めてい る	処方箋のコピーを個別にファイルし内容の把握に 努めている。内服薬は一包化対応を行っており、 与薬も間違いがないようにトリプルチェックして いる。処方された薬は看護師が朝・昼・夕・眠前と 個別に整理し配薬もれがないよう管理している。		与薬の注意事項や薬の作用・副作用など施設内の 教育委員会の企画により管理薬剤師を講師にむか え勉強会を開催している。
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防 と対応のための飲食物の工夫や身体を動か す働きかけ等に取り組んでいる	管理栄養士が繊維質の食材や乳製品などバランス を考えたメニューを企画、ラジオ体操や理学療法 士による集団体操も継続的に実施している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じ た支援をしている	個々に応じた支援を実施している。今年度より歯 科の検診を実施。口腔内の状態を評価していただ き、管理方法や対応を指導してもらっている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や飲水量、体重を把握し、看護師・医 師・管理栄養士・介護職員が個々の状態に応じた 支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止委員会により予防や対応の取り決めがある。教育委員会と連動し勉強会も開催、地域の感染症の流行にも注意し職員や利用者へ情報提供を実施している。手洗い・うがいを習慣とし、来客者への健康チェックも行っている。		エレベーターのボタンや手すり、椅子・机など定期的に消毒を行っている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や台所などの清潔・衛生が保てるよう注意している。冷蔵庫内の清掃や食材管理についても感染防止委員会の取り決めにより定期的実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に花を生けたりベンチを置き温かみができるよう配慮している。また、クリスマスイルミネーションを実施している。		ホームの入り口には、小さなギャラリーとして利用者の写真を掲示している。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については、居心地の良い場所となるよう、家具の配置や飾りつけなど利用者とは話し合っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや廊下、テラスなどにテーブルセットや椅子などを設置、訪問者との談話や一人で過ごせる空間作りをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や利用者と相談し、なじみある居心地の良い空間となるよう家具や写真、飾りなどについて配慮している。		事情がありなじみある物の持込など困難な場合は、職員がご本人の安心できる空間について考え、家具などを寄付していただき対応している。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温との差が出ないように温度計、湿度計を使用し調節している。定期的な換気や消臭対応も速やかに実施している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて生活環境の改善をリスク委員会と共に検討している。自力での歩行を維持するための自助具やトイレでの立ち上がりをスムーズに行うための手すりの増設など利用者の可能ながぎりの自立を意識している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の「出来ること」「出来ないこと」・「わかること」「わからないこと」をチェックし、混乱が生じないための支援方法を検討している。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスで季節の花や野菜を栽培したり、景色を眺めながらお茶が飲めるようベンチセットを設置している。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

正社員・パート職員それぞれが、教育・感染・給食・リスク・親睦・広報・苦情・身体拘束廃止などの委員会に属し、役割を持って利用者・ご家族が安全に、安心して、明るく、楽しい生活環境づくりを、また、職員がやりがいを持って働ける職場環境づくりに取り組んでいる。 管理者である看護師と主治医、併設施設との連携を行い、日々の健康管理や急変時の対応などの体制を整えている。